

三松正夫が種を蒔いた

北海道・有珠山では何が行われてきたか



三松正夫
有珠山

昭和十一年九月末にかけのどかな
麦畑とフカハ部落を持ち上げ四ヶ月の爆発を経て溶岩推上と
いう珍しい現象を伴ってこの地に誕生した
時は第二次世界大戦末期の混乱下であり厳しい報道規制が敷
かれ火山学者の十分な調査研究さえままならない頃であった
この様な中であつて地元有珠郵便局長三松正夫（一八八八
—一九七七）は明治四十二年の有珠山噴火体験時に受けた学者の
教えを想起しこの火山活動を歴史の空白にしてはならないと
冷静な観察眼で創意工夫と努力想像を絶する苦難を重ねて火山
誕生の経過語る貴重な資料を世に残された
更に敗戦の混乱の中この新山を荒廃から護るため私財を
投じて主要地域を購入万民の宝として保護に死力を尽くされ
今日迄我々に自然のあるがままの姿を残された
翁の私利私欲を越えた行動の意味を後世に語りつぐために
この像をここに建立する
平成二十二年十二月二十八日
昭和十一年生成五十周年記念事業実行委員会
壮瞥町長 菅原俊一 謹書

火山防災文化

宇井忠英

環境防災総合政策研究機構専務理事
北海道大学名誉教授

平成20年7月18日(金)18:00-19:30

環境総合館1階レクチャーホール

主催：名古屋大学災害対策室 TEL052-788-6038

災害対策室

検索